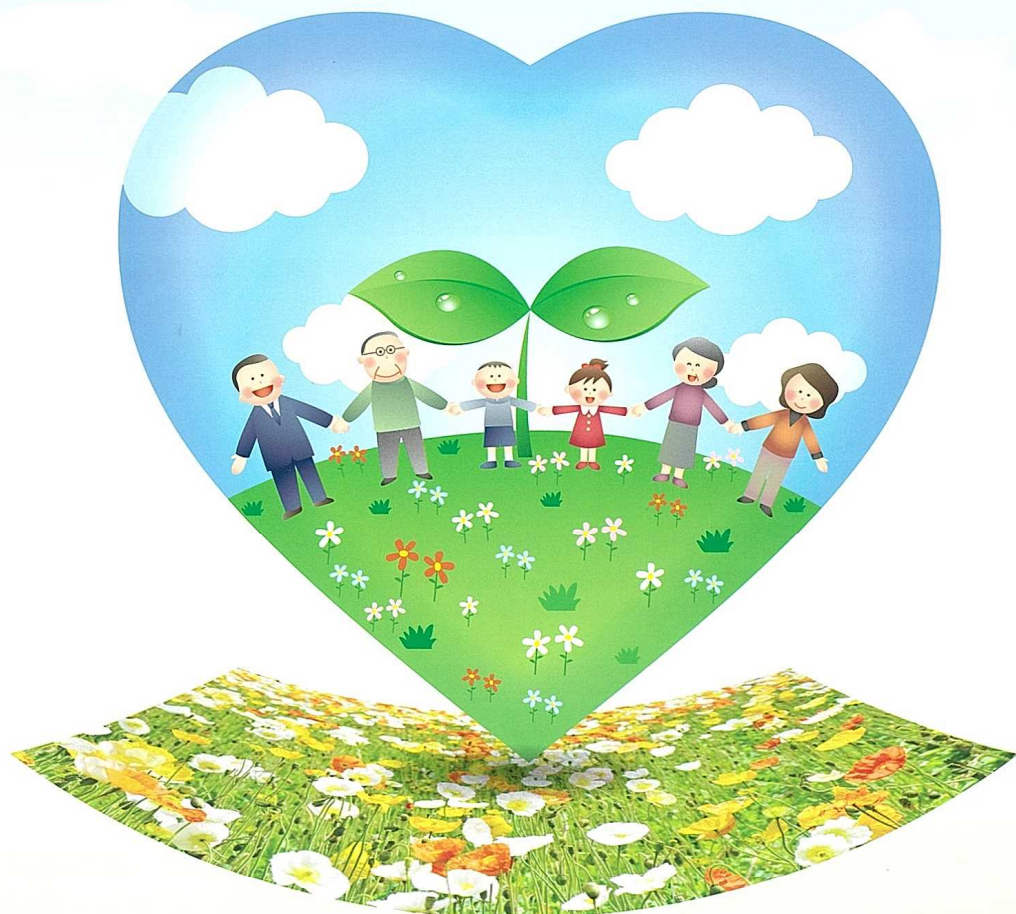


東京都都市づくり公社の 緑化事業



公益財団法人 東京都都市づくり公社

江戸園芸ツツジとは

元禄時代、江戸ではツツジが大流行しました。その中心地が駒込染井です。中でも、染井の伊藤伊兵衛三乃丞は江戸随一の園芸家として名をなし、自らを「きり嶋屋伊兵衛」と称し、元禄5年（1692）我が国初のツツジ・サツキ図鑑「錦繡枕（きんしゅうまくら）」を発行しました。錦繡枕にはツツジがすでに170余品種も記載されています。江戸でブームのツツジは参勤交代などをとおして全国に伝えられ、また、その後海外にも伝わるなどして、日本の代表的な園芸の一つとして発展してきました。庭園をはじめ公園や緑地、街路樹、施設周りには必ずといってよいほどツツジは用いられてきました。それほど身近な花木ですが、近年では、様々な理由から伝えられた豊かな品種の継承が困難な状況にあります。江戸から東京に伝えられた貴重な伝統園芸文化を次代に伝えたいものです。以下に紹介するツツジは錦繡枕に記載され、300有余年を経て現代に伝えられた古品種ツツジの一端です。



本霧島（ほんきりしま）
江戸キリシマ系、緋色一重、1656年に薩摩、大阪を経て伊兵衛のもとに下されました。江戸からの名花中の名花です。



白琉球（しろりゅうきゅう）
リュウキュウ系、錦繡枕ではツツジ五花の一つに挙げられています。性質は強健で現在でも利用が多い。



飛鳥川（あすかがわ）
オヤマツツジ系、紅紫色花や絞り花、覆輪花などが1本の木に賑やかに咲き分けます。花は大きくあでやか。



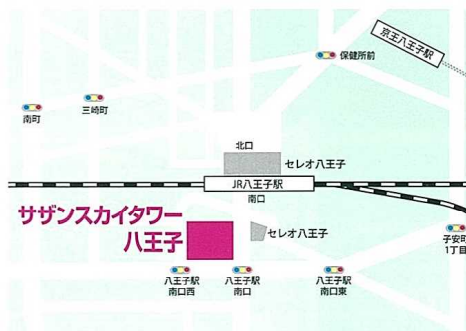
駿河万葉（するがまんよう）
モチツツジ系、紅の勝った紫紅色、花期は遅く6月ごろまで見られます。雄しべが花弁化し、八重咲きとなり、斑点も鮮やかで華やかな姿です。今では希少となりました。



白万葉（しろまんよう）
リュウキュウ系、花期は長く白色八重咲きです。内側で雄しべが花弁化し、リング状に見えます。いまではほとんど見られません。



花車（はなぐるま）
モチツツジ系、紅紫色で花弁は付け根まで深く切れ込み、紡錘形をしています。やさしい気品のある雰囲気を感じます。



■お問い合わせは
**公益財団法人 東京都都市づくり公社
事業推進部公益事業課
まちづくり支援係**
URL: <http://www.toshizukuri.or.jp/information/midori>
〒192-0904 東京都八王子市安町4丁目7番1号
サザンスカイタワー八王子7階
電話 042-686-1910
FAX 042-686-1909
Eメール koueki@toshizukuri.or.jp

緑によるまちづくり支援

公社では、緑豊かな「住環境の創出」と「緑の保全・創出を通じた質の高いまちづくりの実現」を目的として緑化事業に取り組んでいます。

ふれあい花畑づくり

公社では、公社保有地等を活用して、地域住民と協働して菜の花やコスモス等の花畑づくりによる地域緑化に取り組んでいます。地域住民の熱意や創意工夫が生かされるよう、地域の団体と公社で協定を結び、園芸資材の助成など地域の緑化活動を積極的に支援しています。



●ふれあい花畑づくりの仕組み（イメージ）

- ①地域住民が花畑づくりへ自由に参画し公社と協働して行う花畑づくり。
 - ②公社と町会等の地域の団体が協定を締結し、地域のより積極的な参画で行う花畑づくり。
- 協定により、地域の熱意と創意工夫が活かされるとともに公社からは道具類や種子など園芸資材を提供します。



協定での公社の役割

- 一定の期間、花畑用地の提供
- 土壌改良、柵、看板設置等の基盤整備
- 協定団体に対する道具類、種子・球根等の園芸資材の提供
- 用地、施設等の基本的な管理

協定での地域の役割

- 1年を通して美しく楽しい花畑の創出
- 種まき・除草・花摘み等花畑の運営
- 花畑の日常管理
- 日常の点検、安全管理

接道部ガーデニング緑化

公社の関わる区画整理事業地区内において道路に接する部分を緑化する場合、緑化費用の一部を助成することで、みどり豊かなまちづくりと都民のガーデニングを支援します。

●接道部ガーデニングイメージ



江戸園芸ツツジによる特色ある緑化と普及啓発



公社の苗木畑を活用し、江戸から東京へと受け継がれた伝統的な園芸植物である江戸園芸ツツジを育成増殖し、まちづくりでの活用や都民への苗木配布等をおして、特色ある緑化と緑の普及啓発に努めています。

